



基本目標3 学びを支え、つなぐ教育環境の充実

【施策項目】

- 1 5 学校運営の充実
- 1 6 学校施設・設備の充実
- 1 7 学びのセーフティネットの構築
- 1 8 教員の研修の推進
- 1 9 家庭教育支援の充実
- 2 0 学校と地域の連携・協働の充実
- 2 1 学校段階等間の連携・交流の充実

施策項目15 学校運営の充実

現状と課題

学校組織の活性化のためには、学校経営方針や学校の重点目標を明確に示し、全教職員による経営参画意識や協働意識を高め、その具現化を図ることが必要です。また、校内でリーダーシップを発揮する教員の育成や、学校運営の改善を図るための組織の位置付け、小中連携・一貫教育による9年間を見通した目指す子ども像の実現に向けた教育課程の接続など、学校の機能を向上させることが求められます。

千歳市では、「児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立している」【R1全国学力】と回答した学校の割合は小学校75.0%、中学校62.5%資料②であり、「どちらかといえば、している」も含めると100%であり、検証改善サイクルの確立は概ねなされている状況です。

一方、多様化する教育ニーズなどにより、教員の長時間労働が常態化するなど、教育現場の負担が増加しており、教職員の長時間勤務の解消は喫緊の課題となっています。「千歳市立学校における働き方改革推進計画※」に基づいて、教職員が心身の健康を維持しながら、教育活動に意欲的に取り組むことで、教育の質の向上と、子どもたちが地域と一体となって心身ともに健やかに成長できる環境づくりを行うことが必要です。

施策の概要

児童生徒の実態や各種データ等を踏まえた教育課程を編成するとともに、校内組織体制の改善、PDCAサイクルを確立して学校の活性化を図ります。また、教職員の働き方改革の推進に努めます。

主な取組及び具体的な内容

主な取組	具体的な内容
カリキュラムマネジメントの推進 【学校】	学校の特色を生かした適切な教育課程の編成・実施・評価・改善を行います。
学校指導訪問の充実 【市教委】	児童生徒の姿や各種データに基づいた教育課程の編成や確かな学力を身に付けさせる授業のあり方について、学校訪問を通じて指導・助言を推進します。
教職員の働き方改革の推進 【市教委】	「千歳市立学校における働き方改革推進計画」に基づき、各校における業務改善や実効ある環境づくりに努めます。

目標指標

指標の内容	現状値	R12目標値
児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立している学校の割合 【R1全国学力】資料②	R1 小 75.0% 中 62.5%	小 100% 中 100%
指導計画の作成に当たっては、各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列している学校の割合【R1全国学力】資料②	R1 小 50.0% 中 25.0%	小 100% 中 100%
業務改善に取り組んでいる学校の割合【R1全国学力】資料②	R1 小 68.8% 中 62.5%	小 100% 中 100%

※千歳市立学校における働き方改革推進計画：平成30年3月に北海道教育委員会が策定した「学校における働き方改革『北海道アクション・プラン』」に準拠し、千歳市立学校における働き方改革を進めるために、平成30年12月に定めた（令和元年9月改定）。学校、家庭、地域、行政が密接に連携し、保護者や地域住民等の理解を得ながら、教員が授業や授業準備などに集中し、健康で生き生きとやりがいを持って勤務できる環境を構築することを目指している。

基本目標3 学びを支え、つなぐ教育環境の充実

施策項目16 学校施設・設備の充実

現状と課題

学校施設は、子どもたちが一日の大半を過ごす活動の場であるとともに、地震などの災害発生時には地域住民の避難場所としての役割を果たすことから、その安全性の確保は極めて重要であります。

千歳市では、地震から子どもたちを守るため、小中学校の校舎・体育館の耐震化や体育館の天井材等の非構造部材の耐震化工事を完了させており、避難所となる体育館トイレの洋式化についても工事を完了しています。

また、子どもたちの主体的な活動や自らの意思で学ぶことを支え、情報活用能力の育成や校務情報化の推進に資するためICTを日常的に活用できる環境として、校内無線LANの整備や電子黒板等のICT機器の配備を完了しています。

今後の課題としては、小中学校の多くは、昭和40年代から50年代にかけて児童生徒数の急激な増加によって建設されているため、学校施設や設備の老朽化対応を行うとともに、学校施設の狭隘化を解消し教育環境を改善するための分離新設校の建設を進める必要があります。

また、施設や設備の安全性の確保、衛生管理、機能維持及び教育環境の改善を図るため、計画的な改修や適切な学校配置を進める必要があります。

さらに、情報活用能力の育成を図るために求められている学習活動の実現に必要な学習者用コンピュータや電子黒板などのICT環境の整備・更新を計画的に進めていく必要があります。

施策の概要

学校施設・設備の改修やICT環境の整備・更新を計画的に実施し、安全で快適な学習環境の整備を推進するとともに、市内小中学校の適正規模・適正配置に努めます。

主な取組及び具体的な内容

主な取組	具体的な内容
学校施設・設備の適切な維持管理 【学校・市教委】	学校施設・設備の点検を行い、破損や故障に迅速に対応します。
学校施設の計画的な改修 【市教委】	老朽化が進んでいる施設や設備の改修を計画的に進めます。
ICT機器の整備・活用（再掲） 【学校・市教委】	子どもたちの興味関心を高めるとともに、効果的な学習指導を進めて学力向上を図るために、ICT機器を整備し、その活用を促進します。
市内小中学校の適正規模・適正配置 【市教委】	児童生徒数の推移等を踏まえた市内小中学校の適正規模・適正配置に努めます。

目標指標

指標の内容	現状値	R12目標値
大規模改修（1校当たり2,000万円を超える工事）の実施校数（各年度の整備数）【市教委】	R1 2校	2校以上

施策項目17 学びのセーフティネットの構築

現状と課題

教育相談は、児童生徒や保護者が抱える多様な不安や悩みに対応しながら、本人やその保護者などに問題の解決に向けた助言を行うなど重要な役割を担っています。千歳市では、専門的な知識と経験を有するスクールカウンセラー*を小学校8校、中学校8校に配置するとともに、身近な相談相手となる心の教室相談員*を小学校13校に配置しています。

また、経済的理由で教育の機会が奪われることのないよう、小中学生に対する就学援助、高校生以上に対する給付型奨学金の支給を行うほか、遠距離通学となる児童生徒の通学手段の確保のためスクールバス等を運行するなど、子どもたちが安心して教育を受けられる環境の整備に努めています。

いじめや不登校など児童生徒の問題行動については、未然防止及び早期発見・早期対応が重要であり、多様化・複雑化する児童生徒の悩みや不安をしっかりと受け止めて相談に当たるとともに、児童生徒や保護者、教職員の悩みや不安を解消するため、広く相談支援ができる体制を整えることが必要です。

社会環境の変化や個々の児童生徒の状態に対応できるよう、教育相談体制や教育費援助制度の充実が求められており、これら課題の解決のため、専門相談員の配置などが求められています。

施策の概要

社会環境の変化や個々の児童生徒の状態に対応できるよう、専門家や地域の人材を活用した教育相談体制の充実、教育費援助制度の充実を図るとともに、遠距離通学となる児童生徒のためにスクールバス等を運行します。

主な取組及び具体的な内容

主な取組	具体的な内容
スクールカウンセラーの配置 【学校・市教委】	問題行動等の早期対応を図り、児童生徒や保護者、教職員の悩みや不安を解消するため、小中学校に専門的な知識と経験を有するスクールカウンセラーを配置し、学校における教育相談体制の充実を図ります。
心の教室相談員の配置 【学校・市教委】	問題行動等の未然防止・早期発見を図るため、児童の身近な相談相手として地域の人材を活用し、小学校に心の教室相談員を配置し、学校における教育相談体制の充実を図ります。
専門相談員及びスクールカウンセラーによる教育相談の実施 【市教委】	スクールカウンセラー未配置校を含めた全市的な対応を図るため、専門相談員の配置及びスクールカウンセラーによる教育相談日の開設など、教育相談体制の充実を図ります。
就学支援の充実 【市教委】	経済的理由により就学が困難な児童生徒の保護者に対して、必要な援助を行い、適切かつ迅速な就学支援に努めます。
奨学金制度の充実 【市教委】	向学心があり能力があるにもかかわらず、経済的理由により修学が困難な生徒、学生を支援するため、奨学金基金をもとに奨学金を交付し、等しく教育を受ける機会を確保する奨学金制度の充実を図ります。

目標指標

指標の内容	現状値	R12目標値
スクールソーシャルワーカー・スクールカウンセラー・心の教室相談員による相談業務の月平均開設時間数及び年間相談件数【市教委】	R1 602H 2,016件	666H以上 2,086件以上
奨学金の交付を希望する生徒・学生のうち選考者数の割合（高校生・大学生）【市教委】	R1 高校 1.2倍 大学 1.3倍	高校 1.0倍 大学 1.0倍

*スクールカウンセラー：学校において、児童生徒のいじめや不登校、生活上の悩みなどの相談に応じ、臨床心理に関する専門的な知識や技術を用いて指導・助言を行う専門家。

*心の教室相談員：児童の悩み、不安、ストレスを解消し、問題行動を解決するため、身近な相談相手として地域の人材を活用し、小学校に配置している相談員。

基本目標3

学びを支え、つなぐ教育環境の充実

施策項目18 教員の研修の推進

現状と課題

学習指導要領が求める「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「学びに向かう力・人間性」などの資質・能力を子どもたちに身に付けさせるためには、教育施策の検証や学習指導の改善を行う必要があります。各学校では、教職員の資質・能力向上のための組織的・計画的な校内研修※が充実してきており、授業改善のための研修が着実な成果をあげています。一方で、「教職員は、校内外の研修や研究会に参加し、その成果を教育活動に積極的に反映させている」【R1全国学力】と回答した学校の割合は小学校50.0%、中学校62.5%資料⑥にとどまっています。各教職員は、キャリアステージに応じた研修に参加しているものの、その成果の還流や自校の教育活動に反映させることに課題があります。

また、義務教育9年間を見通した系統的な教育活動や小中学校の円滑な接続を通して、子ども一人ひとりの学力・体力の向上と豊かな人間形成を図る「小中連携・一貫教育」の視点から、小中学校の教職員が目指す子ども像の実現に向けて互いに磨き合う研修体制の充実も求められています。

施策の概要

教職員の資質向上を目的とした校内外の研修、接続する小中学校が連携した研修活動を推進します。

主な取組及び具体的な内容

主な取組	具体的な内容
授業改善につながる校内研修の充実 【学校・市教委】	石狩教育局及び学校指導室による学校指導訪問を通じて、学校運営や授業改善について指導・助言を行い研修の充実を図ります。
教職員研修の充実 【市教委】	市独自の研修会を充実し、教職員の積極的な参加を促進します。
小中学校が連携した研修の充実 【学校・市教委】	義務教育9年間を通して「目指す子ども像」の実現に向け、小中学校が連携した研修の充実を図ります。

目標指標

指標の内容		現状値	R12目標値
「授業研究や事例研究など、実践的な研修を行っている」と回答した学校の割合【R1全国学力】資料⑥	R1	小 75.0% 中 75.0%	小 100% 中 100%
「教職員は、校内外の研修や研究会に参加し、その成果を教育活動に積極的に反映させている」と回答した学校の割合【R1全国学力】資料⑥	R1	小 50.0% 中 62.5%	小 100% 中 100%
近隣等の小学校（中学校）と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取組を行った学校の割合【R1全国学力】資料⑥	R1	小 50.0% 中 25.0%	小 100% 中 100%

※校内研修：学校ごとに学校や地域をめぐる教育の今日的課題に即して自主的に実施・参加する研修活動。

施策項目19 家庭教育支援の充実

現状と課題

家庭において生活リズムを整え、規則正しい生活習慣や学習習慣を身に付けさせることは、子どもたちの健康や学力・体力の向上にとっても効果があります。

千歳市では、家庭において子どもたちへの働きかけを行う意識を共有してもらうため、千歳市PTA連合会と連携した「千歳市家庭生活宣言」普及活動や、「学力向上パンフレット」の配布など、家庭の教育力向上に向けた取組を進めています。

千歳の子どもたちは、全国学力・学習状況調査の結果などから、家でゲームやスマートフォンを使用する時間が長く、学習する時間が短いことが分かっており、これら生活習慣、学習習慣の改善に課題があります。

課題解決のためには、粘り強い地道な取組の積み重ねが重要であり、引き続き関係機関と連携しながら、家庭の教育力向上に向けた取組を行う必要があります。

施策の概要

「千歳市家庭生活宣言」の普及促進や、家庭教育の重要性を啓発する情報提供を行うことなどにより、各家庭が子どもたちの生活習慣、学習習慣の改善に取り組むよう働きかけます。

主な取組及び具体的な内容

主な取組	具体的な内容
「千歳市家庭生活宣言」の普及促進 【学校・家庭】	千歳市PTA連合会との連携により「千歳市家庭生活宣言」の普及に努め、生活リズムの改善や学習習慣の定着により、健やかな子どもたちの育成を推進します。
家庭への情報発信 【市教委・学校】	学校は、児童生徒の学習への取組状況等を家庭に伝えるとともに、家庭学習の手引き等を活用し、各家庭が主体性を持って子どもたちへの働きかけを行うよう促します。教育委員会は、子どもたちの生活習慣・学習習慣の改善に資する情報提供を実施します。

目標指標

指標の内容	現状値		R12目標値	
	小6	中3	小6	中3
「朝食を毎日食べている、どちらかといえば食べている」と回答した児童生徒の割合（再掲）【R1全国学力】資料⑤	93.7%	91.4%	100%	100%
「平日、1日当たりの家庭学習時間が1時間以上」と回答した児童生徒の割合（再掲）【R1全国学力】資料①	62.8%	65.8%	90%以上	100%

基本目標3

学びを支え、つなぐ教育環境の充実

施策項目20 学校と地域の連携・協働の充実

現状と課題

子どもたちを取り巻く環境や学校が抱える課題は複雑化・多様化しており、学校と地域の連携・協働の重要性が増しています。

千歳市では、令和2年度からすべての小中学校にコミュニティ・スクール（学校運営協議会）が導入され、徐々に活動の充実が図られています。

地域住民等が学校の運営に主体的に関わることにより、学校の教育目標や目指す子ども像などへの理解が深まり、多くの大人の専門性や地域の力を生かした教育活動が実現して子どもたちに多様な経験を積ませることが可能になりますが、学校と地域との学校運営に関するビジョンの共有や、実際に活動を担う人材の確保などに課題があります。

学校と地域との連携体制は、活動の実績を積み重ねることにより深まることから、引き続き地域と連携する活動の充実に努めます。

また、全国各地では、児童生徒の登下校中に不審者による「声かけ」や「付きまとい」などが発生しています。学校・家庭・地域が連携し、子どもたちが安全に安心して登下校できるよう、通学路における見守りや避難場所等の充実に努めるなど、児童生徒の安全・安心を高める体制づくりが求められています。

施策の概要

学校と地域住民等が「子どもをどのように育てていくか」、「どのような教育を実現していくか」という目標やビジョンを共有し、力を合わせて学校運営に取り組む「コミュニティ・スクール」の仕組みを活用し、「地域とともにある学校」の環境づくりを推進します。

子どもたちの登下校等の安全管理や学校への不審者侵入など緊急事態発生時に関係機関、地域と小中学校が連携した安全確保のための体制づくりを進めます。

主な取組及び具体的な内容

主な取組	具体的な内容
コミュニティ・スクール活動の充実 【学校・地域】	コミュニティ・スクールに対する地域の理解を深め、連携を強めることにより、学校課題の解決と充実した教育活動の実践につなげます。
学校からの情報発信 【学校】	学校だよりの地域町内会への回覧や、地域と連携した取組に関する学校ホームページへの掲載などにより、地域との協働を重視した情報発信に努めます。
「千歳っ子見守り隊」と学校の連携 【学校・地域】	「千歳っ子見守り隊」とPTA活動、児童会・生徒会活動との交流の場を設けるなど工夫して、取組の充実や発展を目指します。
安全に関する児童生徒の自治的な活動 【学校・地域】	校内や通学路の危険箇所や「子ども110番の家 [※] 」の所在などを調査し、「安全マップ」を作成するなど、自治的な活動を展開します。

目標指標

指標の内容	現状値	R12目標値
「今住んでいる地域の行事に参加している、どちらかといえば参加している」と回答した児童生徒の割合（再掲） 【R1全国学力】資料②	R1 小6 68.2% 中3 44.8%	小6 70%以上 中3 50%以上
教育課程の趣旨について、家庭や地域との共有を図る取組を行っている学校の割合【R1全国学力】資料②	R1 小 50.0% 中 75.0%	小 75%以上 中 75%以上
千歳っ子見守り隊及び緊急避難所「子ども110番の家」登録件数【市教委】	R1 594人 1,159件	600人以上 1,200件以上

※子ども110番の家：子どもを犯罪から守るための民間協力の商店、事業所、民家等で、営業時や在宅時に子どもが助けを求めてきた時に、一時的な保護と警察等への通報を行う。

施策項目21 学校段階等間の連携・交流の充実

現状と課題

近年、幼児教育の重要性を踏まえ、幼稚園教育要領、保育所保育指針や幼保連携型認定こども園教育・保育要領の改訂が行われたところであり、幼稚園、保育所、認定こども園と小学校との一層円滑な接続が望まれます。

また、小中学校の接続については、中学校区内の小中学校が目指す子ども像を設定し、義務教育9年間を見通した系統的な教育活動を行うことにより、子ども一人ひとりの学力・体力の向上と豊かな人間形成を図ることが求められています。

千歳市では、小学校入学前に幼稚園、保育所等との連携を図り、円滑な接続に向けた情報交換や交流を行っているほか、小中連携に関するモデル校区を設定して研究事業を実践するなど、小中連携・一貫教育を推進しています。

高等教育機関との連携においては、eラーニングシステムを活用した家庭学習の普及や、プログラミング教育の導入など、公立千歳科学技術大学との連携による小中学校の教育活動の充実を図っています。

現状では、近隣等の小学校（中学校）と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定などの取組をよく行っている【R1全国学力】学校は、小学校で50%、中学校で25%資料②にとどまっているなど、連携の状況にはまだ課題があることから、幼児教育、小学校教育、中学校教育及び高等教育の連携をさらに進めていく必要があります。

施策の概要

幼稚園、保育所等から小学校への円滑な接続を図るため、小学校入学に当たって学校種間の交流、連携を推進します。また、義務教育9年間を見通した系統的な教育活動や小中学校の円滑な接続を目指す小中連携・一貫教育の取組を通して、子ども一人ひとりの学力・体力の向上と豊かな人間形成を図ります。

引き続き公立千歳科学技術大学との連携を強め、情報教育の充実や学生の支援による課外学習の充実に努めます。

主な取組及び具体的な内容

主な取組	具体的な内容
幼児教育と小学校との連携の促進 【学校・市教委・幼稚園等】	幼稚園・保育所・認定こども園と小学校の間で子どもの成長に関する情報交換や交流の機会を充実させ、小学校へ円滑に接続できるよう取組を進めます。
公立千歳科学技術大学との連携の推進 【学校・市教委】	情報教育における協力・助言やeラーニングシステムの活用、長期休業中の学習支援など、公立千歳科学技術大学との連携による小中学校の教育活動の充実を推進します。
小中連携・一貫教育の推進 【学校・市教委】	義務教育9年間で目指す子ども像を設定し、小中学校が学習指導や生徒指導において系統性・連続性に配慮した教育活動を推進します。

目標指標

指標の内容	現状値	R12目標値
近隣等の小学校（中学校）と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取組を行った学校の割合（再掲）【R1全国学力】資料②	R1 小 50.0% 中 25.0%	小 100% 中 100%